

2014年4月7日

各位

興和株式会社

**新規緑内障・高眼圧症治療薬「K-115点眼液」の国内第Ⅲ相臨床試験結果  
学会発表のお知らせ**  
—World Ophthalmology Congress Of The International Council Of Ophthalmology 2014—

興和株式会社（本社：名古屋市中区、代表取締役社長：三輪芳弘、以下「興和」）は、2014年4月2日～6日に東京で開催された第34回 国際眼科学会（World Ophthalmology Congress Of The International Council Of Ophthalmology 2014、以下「WOC 2014」）において、国内で製造販売承認申請中である、新規緑内障・高眼圧症治療薬「K-115点眼液」（一般名：リパスジル塩酸塩水和物）の第Ⅲ相臨床試験結果を発表したことをお知らせいたします。

本薬は、世界初の作用機序を有する緑内障・高眼圧症治療薬であり、Rhoキナーゼ（ROCK：Rho-associated, coiled-coil containing protein kinase）を阻害することにより、線維柱帯-シュレム管を介する主流出路からの房水流出を促進することで眼圧を下降させます。

興和は、本薬を日本の市場のみならず世界中に向けて投入することで、患者さんに緑内障・高眼圧症治療薬の新たな選択肢を提供したいと考えております。

**■WOC 2014 発表演題**

演 題	POAG及びOH患者を対象としたK-115点眼液単独投与時の国内第Ⅲ相臨床試験
概 要	POAG・OH患者107名に対して、K-115点眼液あるいはプラセボ点眼液を1日2回、8週間単独点眼した結果、眼圧下降効果を認めるとともに、安全性で重大な問題は認められませんでした。
発表者	岐阜大学医学部 眼科教授 山本哲也先生
演 題	POAG及びOH患者を対象としたチモロール点眼液あるいはラタノプロスト点眼液とK-115点眼液併用時の国内第Ⅲ相臨床試験
概 要	チモロール点眼液(208名)あるいはラタノプロスト点眼液(205名)を使用しているPOAG・OH患者に対して、K-115点眼液あるいはプラセボ点眼液を1日2回、8週間併用点眼した結果、さらなる眼圧下降効果を認めるとともに、安全性で重大な問題は認められませんでした。
発表者	熊本大学医学部 眼科教授 谷原秀信先生

## ■緑内障・高眼圧症


緑内障とは、視神経と視野に特徴的変化を有し、通常、眼圧を十分に下降させることにより視神経障害を改善もしくは抑制しうる眼の機能的構造的異常を特徴とする疾患です。適切に治療されずに放置すると視野狭窄から失明に至る疾患であり、日本の中途失明原因の第1位(2005年)となっております。また、高眼圧症とは、視野狭窄が無いものの、眼圧が正常値を超えている病態です。

2000年～2002年に行われた詳細な緑内障疫学調査によれば、成人(40歳以上)の緑内障有病率は5.0%であり、その約8割(3.9%)は原発開放隅角緑内障(広義)といわれております。

現在、緑内障のエビデンスに基づいた唯一確実な治療法は、「眼圧を下降すること」とされており、原発開放隅角緑内障(広義)に対する治療では、薬物治療が第1選択とされております。

## ■Rhoキナーゼ (ROCK : Rho-associated, coiled-coil containing protein kinase)

Rhoキナーゼはタンパク質リン酸化酵素(プロテインキナーゼ)の1つであり、Rho-ROCK情報伝達に基づく多彩な細胞応答の制御機構に関与する酵素です。

 興和株式会社	広報第二部(東京)	東京都中央区日本橋本町 3-4-14 TEL:03-3279-7392
	本店(名古屋)	名古屋市中区錦 3-6-29